

「許せないよね」

出典：光村図書「中学道徳2 きみが いちばん ひかるとき」

学年 2年 内容項目 A(1) 自主、自律、自由と責任

ねらい 自分の考えで判断し、常に自分の行動に責任をもって、誠実に生きようとする態度を育てる。

岩手県盛岡市立厨川中学校
指導教諭
おいかわひとみ
及川仁美



わたしの授業、ポイントはココ！

本時は「無責任な自分の言動」と向き合い、「自分で考え判断すること」を考えます。そこで、教材には書かれていない、最後の千佳のせりふに対する「私」（香織）の返答を考えることを、中心的な発問に据えました。しかし、この手の問いは、得てして「口先だけのキレイゴト」に終始しがちです。

それを打破すべく、まず、最後の場面を代表生徒に動作化させ、「私」役の生徒に、どんな気持ちになったかを語ってもらい、「言い返さなくてもやもや」「失敗したなあって感じた」などの思いをクラスで共有しました。その後、千佳に対する「私」の返答を、今度は教師（千

佳役）を相手に役割演技で発表させました。心情がリアルに感じられる返答が多く出され、うなずきながら聞く生徒もいました。

ここでもう一押し。「私」が考えなければならなかった大事なことをまとめた後、「口先だけでなく、本当にできるのか」を問いました。生徒たちは「難しいけど……」と悩みながらも、「でも、やらないとだめだよ」と真剣な表情で語ってくれたのが印象的でした。

その後、「私」の行動の修正点を考えることで、単にトラブルに対応する力だけでなく、トラブルに発展させない言動についても、深め合うことができました。

及川先生授業、ココに注目！

この実践のすばらしさは、授業構想時の丁寧な価値分析と教材分析です。A(1)「自主、自律、自由と責任」を指導する際に留意すべきことは何か、情報モラルに関する教材で前提とすべきことは何かを教師が明確に意識していないと、授業が上滑りしてしまいます。自分の言動に責任をもつ意味や、情報モラルを考えるときに欠如しがちな「主体性ある自分」への気づきを、役割演技などの工夫で焦点化し、最悪な事態を回避するための道徳的行為のイメージを広げている点にも、着目してほしいと思います。

國學院大學 教授
たぬましげき
田沼茂紀

教材の内容(あらすじ) クラスで千佳のボールペンがなくなった。SNSの「盗んだのは沙弥だ」という匿名の書き込みを見て、「私」（香織）は、千佳からの沙弥を非難するメッセージに、つい「許せないよね」と返信してしまう。翌日、言い合いになった千佳と沙弥の間に割って入った「私」は、千佳に「沙弥のこと許せないって言ったでしょう!」と怒りをぶつけられ、どうしたらよいか、わからなくなってしまった。

導入

若者のネットトラブルの現状を知り、学習への興味・関心を高める

発問 これは、何のグラフだと思いますか。

- 交通事故? 詐欺?
- 急に増えているのは、何があったんだろう?
- 被害者だけでなく、加害者も増えているって怖い。

グラフを示し、青少年もネットトラブルに巻き込まれることを、自分事として考えるきっかけとした。情報機器やSNSとの関連を意識させた。

展開

教材を読み、クラスでの話し合いや動作化、役割演技などを通して考える

発問 なぜ、「私」(香織)は「そうよね、許せないよね」と返信してしまったのでしょうか。

- 千佳の勢いがすごかったから、つい、流れで言ってしまった。
- 書き込みを見たとし、千佳の機嫌を悪くしたくなかったから。
- 「許せない」とまでは思っていない。でも、言い返すのは難しい……。

「私」を共感的に捉える生徒が多いと思われたので、「私」に自分の気持ちを重ねて素直に語らせた。

中心的な発問 「私」は、この後、千佳にどんなことを言うと思いますか。「私」の役を演じて考えてみましょう。

- まず、ちょっと落ち着こう。そんなにがんがん責めないでよ。
- 沙弥の話も聞いたほうがいいよ。
- ごめん、メッセージではああ言ったけど、やっぱり根拠がないよね。
- 千佳、自分だって証拠もないのに犯人扱いされたら絶対いやじゃん。
- ▶こういうとき、大事なってどんなことだろう。
- ちょっと立ち止まって、一回考えること。
- 言われている相手の立場とか気持ちを、想像する余裕があればいい。
- 自分の言葉にちゃんと責任をもつ。
- ▶言うのは簡単だけど……本当にできる? 難しいくない?
- 実際、難しいって思うけど……。でも、やらないとだめだと思う。

まず、3人で最後の場面を動作化させ、「私」役の生徒が感じたことをクラスで共有し、その後に、千佳に対する「私」の返答を考えさせた。役割演技の形で発表させ、千佳役は教師が行った。

「私」が考えなければならなかった大事なことを出させた後、「口先だけでなく、本当にできるのか」と問い返し、自分自身の本音と向き合させた。

発問 こうなってしまう前に、どうにかできなかったのでしょうか。

- やっぱり、メッセージのところ。ちゃんと千佳に言えればよかった。
- よく考えないで返事をしてしまったのがいちばんだめだった。
- ▶じゃあ、どんなふうに変えられる?
- 「証拠もないのに、よくないよ。明日、ちゃんと探してみよう」
- ▶他に、修正できそうなところはある?
- 最初のボールペンがなくなったところ。沙弥の「誰かが盗んだんだ」という言葉に反論したり、いっしょに探したりすれば、別の流れになったかも。

「言葉に責任をもつ」ことでトラブルが防げる場面を具体的にイメージさせたいと考え、「私」の行動について修正できるところを考えさせた。

終末

本時の振り返りをする

発問 ノートに、深く考えたことや新たな気づきなどをまとめましょう。

3人に発表させ、気づきや学びを共有した。

